

⑤ Int. Cl.⁴

H 04 M 1/57

識別記号

庁内整理番号

7251-5K

⑬ 公開 昭和61年(1986)10月6日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 電話端末器

⑰ 特 願 昭60-65612

⑱ 出 願 昭60(1985)3月29日

⑲ 発 明 者 村 井 厚 也 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑲ 発 明 者 井 上 真 一 川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社内
⑲ 出 願 人 富 士 通 株 式 会 社 川崎市中原区上小田中1015番地
⑲ 代 理 人 弁 理 士 松 岡 宏 四 郎

明 細 書

1. 発明の名称

電話端末器

従来の電話端末器は通話相手から聞いた電話番号を登録するには、通話終了後手操作により該電話番号を入力し、登録しなければならないと云う欠点があり、此の改善が強く望まれていた。

2. 特許請求の範囲

電話端末器の制御部(1)にPBコード受信処理手段(A)と、PBコード記憶処理手段(B)を備え、

通話中の状態で相手端末から送出されて来るPBコードを受信し、表示すると共に前記PBコードを記憶することを特徴とする電話端末器。

(従来の技術)

従来のDP/PBダイヤル発信機能(DPはダイヤルパルス型、PBはプッシュボタン型を夫々表す)、表示機能、及びダイヤル番号登録機能等を具備した電話端末器に於いて、相手から電話番号を覚えてもらう場合には通話により電話番号を聞き、メモして通話終了後メモした電話番号を登録する手順を取っていた。

3. 発明の詳細な説明

(概要)

通話中の状態で相手端末から送出されて来るPB信号形式の任意の電話番号を自電話端末が受信し、表示・記憶する。

(発明が解決しようとする問題点)

然し上記方法はダイヤル番号の聞き違いや、確認のために再度聞き直したりする事があり、大変面倒であった。

(産業上の利用分野)

本発明は電話端末器に関するものである。

又一例としてPBダイヤル発信機能を持つ電話端末器の場合、PBコードを使用してデータの送

受信は可能であるが、D P 回線では使用出来ないと云う欠点があった。

本発明は上記従来方式の各種欠点を除去し、よりサービス性の高い電話端末器を提供することである。

(問題点を解決するための手段)

第1図の原理ブロック図を使用して本発明を説明する。

第1図に於いて、電話端末器にP Bコード受信器2を備え、制御部1にはP Bコード受信処理手段(A)と、P Bコード記憶処理手段(B)とを設けてある。

通話中にP Bコードを受信するとP Bコード受信処理手段(A)はP Bコードを表示部6へ送り、表示すると共にP Bコード記憶処理手段(B)により記憶部7へ格納する。

(作用)

本発明に依ると通話状態になった後、発信側電

示部6、及びメモリ部7が動作して夫々自己の機能を果たしている。

第3図は本発明の制御フローである。

一般に表示機能付電話端末器の制御部1(マイクロプロセッサにより構成されている)にはキーボード9からの入力により、キー情報の受信処理①、表示処理②を行う機能を持つ。

又ダイヤル発信時等で順次表示された番号を終話時クリアする表示クリア処理③も備えている。

そこで本発明で主たる特徴とする部分はP B受信器2で受信するP Bコードを表示或いは格納するためのP Bコード受信処理④と、表示部6へ所定のフォーマットで送り出す表示処理④を持つと共にコード記憶処理⑤によりメモリ部7の所定のエリアに記憶する。

又此のコード記憶処理⑤はオートダイヤルキー或いはワンタッチダイヤルキーに対応した登録エリアに上記で一旦記憶されたコードを移す処理も行う。

第4図は本発明の操作の一例を示す図である。

話端末器が任意の電話番号をP B信号形式で送出し、着信側電話端末器は此の電話番号を受信して表示し、メモリに記憶出来るので電話番号等を迅速且つ正確に伝送出来ると共に端末器をメモリ代わり使用可能となると云う効果が生まれる。

(実施例)

第2図は本発明のブロック図の一実施例を示す図である。

第3図は本発明の制御フロー図である。

図中、1は制御部(マイクロプロセッサ)、2はP B受信器、3は電話回路網、4はD P/P Bダイヤル回路、5はキースキャン部、6は表示部、7はメモリ部、8は電話回線、9はキーボードである。

以下図に従って本発明の詳細を説明する。尚第2図では電話機回路等は省略してある。

本発明に依る電話端末器はマイクロプロセッサ1の制御によりP B受信器2、電話回路網3、D P/P Bダイヤル回路4、キースキャン部5、表

発信者側がD Pダイヤル発信すると、着信者側には着信音が送られる。これにより着信者側でオフフックして通話状態に入る。

次に発信者側から任意の電話番号を着信者側へ伝える場合には、発信者側でP Bモードへ切替え、ダイヤルデータ(電話番号)を送信する。

着信者側ではP Bレシーバ2により此れを受信し、表示部6に表示し、メモリ部7へ自動的に登録する。尚此の時着信者は表示部6の表示内容を目で確認出来る。

又表示部6に表示した後着信者の操作によりメモリ部7の特定エリアへ登録することも可能である。

通話終了により発信者側、着信者側が共にオフフックすることにより回線が切れて通話状態が終わる。

上記は発信者側からコードを送る場合に就いて述べたが、着信者側から送る場合も同様である。

(発明の効果)

以上詳細に説明した様に本発明によれば、相手側から送られて来た電話番号を自動的に表示し、登録出来るだけでなく、相手側からの情報を迅速且つ正確に受信・登録出来、端末をメモリの代わりに使用出来ると云う大きい効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の原理ブロック図である。

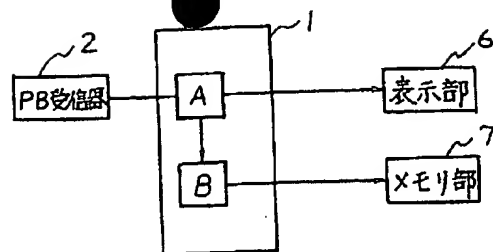
第2図は本発明のブロック図の一実施例を示す図である。

第3図は本発明の制御フローである。

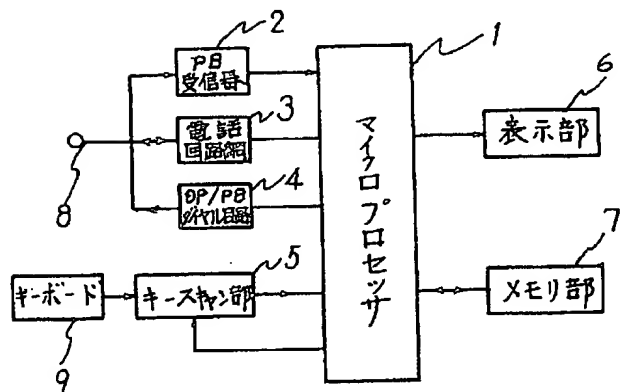
第4図は本発明の操作の一例を示す図である。

図中、1は制御部（マイクロプロセッサ）、2はPB受信器、3は電話回路網、4はDP/PBダイヤル回路、5はキースキャン部、6は表示部、7はメモリ部、8は電話回線、9はキーボードである。

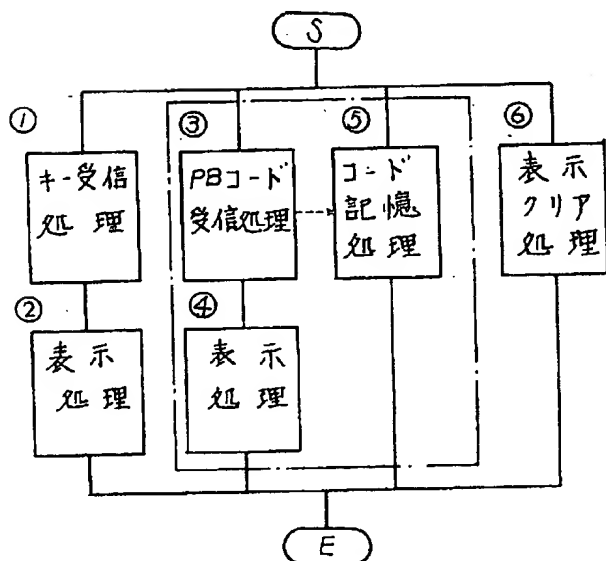
代理人 弁理士 松岡宏四郎



本発明の原理ブロック図
第1図



電話端末のブロック図の一例
第2図



本発明における制御フロー図
第3図

	発信者側	着信者側
1	ダイヤル発信	着信音
2	↓	オフフック
3	通話	通話
4	↓	↓
5	PBモードへ切替 ダイヤルデータ送信(表示)	データ受信(表示)
6	↓	メモリへ登録
7	通話	通話
8	↓	↓
	オンフック(回線断)	オンフック(回線断)

操作の一例
第4図